

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

ピアゴで男子小学生 1 名がゲームをしていた。一人だったので声をかけると、買い物中の母親がいた。(12/13 精華 2)

公民館で学習していた男子中学生に声をかけた。(12/13 小泉 5)

駅北口の虎溪用水公園で高校生が話し込んでいた。もう暗くなっていたので早く帰宅するように促した。駅周辺の子もたちの姿はいつもより少なく感じた。(12/13 南姫 9)

男子小学生がヘルメットをカゴに入れて自転車に乗っていたので、かぶる様に注意した。駅北口のコンビニ横の通路で、大人が座り込んで酒盛りをしていたので注意した。(12/15 池田 6)

駅前交番に聞くと、最近特に目立ったことは無かったが、北口の公園で喫煙するケースがたまに見られるとのことだった。(12/15 脇之島 12)

養正校区の小中高生、みな元気なあいさつができている。一声かけると、何らかの返答があり声かけがいらいます。(12/20 養正 1)

駅北口の公園にいた小学生や中学生に早く家に帰るようにと声をかけた。(12/20 昭和 4)

根本交流センターで、習字やキッズバレエなどの習い事に参加していた児童 幼児、図書館を利用していた高校生に声かけした。(12/21 根本 10)

三連休の中日で子どもたちが少なかった。中学生はクラブの帰りで、大人が迎えに来てごった返していた。クラブには大人が付いていて安心です。(12/24 北栄 1)

= 瑞浪地区 =

駅裏駐輪場にいた男女高校生に早く帰るように声かけをした。パロー裏に段ボール入りゴミ袋が放置されていた。(12/1 土岐 D)

駅前には 12 月に入りイルミネーションが設置されキラキラと華やいでいた。夏に多く集まっていたポケモン GO の集団はまったく見かけない。(12/6 日吉 I)

公園のベンチに男女高校生。暗くなっているので早く帰宅するように促す。(12/8 土岐 C)

今回から 3 月まで中学校生徒への「朝のあいさつ」に時間と場所を変更した。とても寒い朝だったが、元

◆◆◆ 12 月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

| | 多治見地区 | 瑞浪地区 | 土岐地区 | 合計 |
|--------|-------|------|------|-----|
| 指導人数 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 声かけ人数 | 388 | 98 | 253 | 739 |
| 指導員参加者 | 63 | 31 | 39 | 133 |

気な声が聞けて良かった。(12/12 釜戸 G)

・学校帰りの高校生や塾帰りの中学生と出会い、声をかけました。(12/14 陶 E)

・冷気増す宵の口、通学路に人影少なく、自転車の高校生が帰宅を急いでいた。先週オープンしたオークワに立ち寄り、店長さんと情報交換。特に気になることはないとのことではまず安堵。(12/15 稲津 F)

= 土岐地区 =

駅前で帰宅中の高校生 30人程に声かけ。寒さのせいか階段に座る人、たむろする子はいなかった。ベルマートの店員さんに聞いても問題はないとのこと。(12/6 泉 8)

・駅前にてパンクして自転車を直そうとしている高校生 2人と母親一人。少し手伝いましたが車で運ぶ事になりました。(12/7 泉 9)

多治見市内で女子高生が男に切りつけられる事件があり、そちら方面を重点的に回った。児童生徒は外にいなかった。(12/8 妻木 3)

・朝の声かけは雨降りだったため、中学生は車で送りが多かった。車から降りるとあいさつをする子が多かった。小学生は雨のためかやや元気がなかったが、声かけにはしっかり応えてくれた。(12/13 鶴里 4)

・寒くなり外で遊ぶ子どもはほとんどいない。中学生のたまり場の公園にも見かけなかった。(12/17 下石 2)

・冬至の前日で活動時(17:30~)は大変暗く、子どもたちに会えませんでした。しかし、子どもたちが児童館で楽しく遊び 17時頃にはお迎えがあり帰っていくという話を聞きました。(12/20 駄知 6)

駅前のトイレ付近で3名の高校生がかたまって話していたので声をかけた。特に問題なし。(12/21 肥田 7)

ポスト真実

少し前になりますが、英国のオックスフォード英語辞典が発表した「2016年 今年の言葉」は「Post-Truth (ポスト真実)」だと報道されました。

接頭語「post-」がついた形容詞ですが、その意味は時代によって少しずつ変わっているようです。従来、post- は「ある状況や出来事の後」を意味していました。たとえば、post-war (戦後の) などです。ところがイギリスでは 20 世紀半ば頃から、従来の用法以外で使われるようになり、「特定の概念が重要でなくなった、あるいは不適切になった時」を表すようになったということです。

オックスフォード英語辞典の編集者によれば、2016 年度における post-truth の使用頻度は前年の 20 倍だそうです。

イギリスでは EU 離脱の国民選挙の際に、アメリカでは次期大統領選の際に、客観的な事実や真実を提示するよりも、個人の感情に訴えるような政治手法が用いられたとされ、それを指して使われているようです。

この post-truth という状況は、単にイギリスやアメリカの話ではなく、わが国日本でも DeNA のまとめサイト問題などにも見られ、今や世界的な社会現象かも知れません。

日本では新聞が販売部数を減らしているといわれる中、虚実混ぜ合わせたさまざまなニュースが流れるソーシャルメディアが、情報伝達のメインになりつつあり、その結果、事実や真実は二の次になりかねない状況です。

客観的な事実よりも個人の感情に訴える…それが優先されるようであれば、社会の様々な問題の解決はますます遠ざかることとなります。残念ながら、既にそういう社会に入っているのかも知れません。心して日々入ってくる情報を精査することが必要です。

< センターから > 運営協議会を開催しました

12月14日(水)、平成28年度の第2回運営協議会を開催しました。29年度の業務計画(案)や予算(案)について報告し承認をいただきました。意見交換の中で、多治見警察署生活安全課長の高津委員から最近の少年非行の概況を伺いました。今年度は3地区の声かけ活動における指導結果でも、喫煙や迷惑行為が若干増えていますが、警察官による補導や検挙も前年度より増えているようです。特に9月に入って土岐市駅や多治見駅等で少年たちが集まるようになり補導が増えたというのは指導員の皆さんからの報告と同じです。幸い10月以降は駅や交番で伺っても少し落ち着いてきているようです。しかし、いずれにしても子どもたちの見守りには、皆さんの声かけが有効が必要です。今年もよろしくお願ひします。